

下部消化管内視鏡検査(大腸カメラ)説明書

神戸市立医療センター中央市民病院消化器内科(2022. 6)

1. 検査の目的

大腸カメラ検査は、細くて柔らかい管(スコープ)を肛門から入れて大腸の病気(癌・ポリープ・炎症など)を見つけて、治療方法を決めるためにおこなう検査です。近年大腸癌は増加しており、大腸がん検診では便潜血検査をして早期発見に努めています。早く発見すれば内視鏡で取ってしまう事もできるため、当院でも1年間で約5,000人以上の方が、大腸カメラを受けています。

2. 検査の方法

- ・ 検査の前に、大腸の中を空っぽにしておく必要があります。検査指示書に書いてある「食事制限」はきちんと守って下さい。前日夜下剤を服用し、検査当日朝から大腸の中を水洗いしてきれいにする洗腸薬(モビプレップ)を1~2リットル飲んで、下痢をしていただきます。モビプレップを飲めない方は他の洗腸液を使用します。
- ・ 緊張を和らげる薬(鎮静薬・鎮痙薬)と痛みを和らげる薬(合成麻薬)を注射した上で検査を開始します。検査時間は個人差がありますが、約20~30分間です。
- ・ 病気が見つかったときは、必要に応じてその性質(良性か悪性か)を調べるため小さな組織を取って検査(生検)をすることもあります。また、切除することが必要な病変が見つかった場合、数ミリ大のポリープなどは、外来にて切除する(コールド・ポリペクトミー)ことも可能です。10ミリ以上の大きなポリープは出血・穿孔などの危険性も高いので、入院で切除(EMR)します。

3. 検査前後の注意事項

- ・ 著しい便秘の方や、腸がつまりかかっている場合は、洗腸薬内服で腹痛や嘔吐をきたすことがあります。
- ・ お腹の手術などを受けている方は癒着などのため検査に苦痛を伴う事もあります。必要に応じ痛み止めを追加します。検査施行医にお申し出ください。
- ・ 検査を楽に受けてもらうため、鎮痛薬/鎮静薬を使用しますので、検査当日は車・バイク・自転車の運転は控えてください。

4. 検査・治療に伴う危険と偶発症

大腸カメラは、注意すれば安全で有用な検査です。しかし、きわめてまれに偶発症(患者さんへの不利益な事故)が起こることもあります。具体的にはカメラによる出血・穿孔などですが、2016年の全国集計ではその頻度は0.011%(検査9,000件に1件)死亡率は0.0004%(検査24万件に1件)といわれています。また、大腸ポリープ切除術の偶発症頻度は0.56%(180件に1例)と報告されています。

万一、偶発症が発生した時は外科処置を含め最善の処置をいたします。

もし、検査や手術などの治療を行う中で偶発症が発生した場合には、医師は最善と思われる処置を迅速に講じますが、その場合の費用(追加診療費)は通常の診療と同様に保険診療となります。

5. 費用

内容によって多少変動しますが、検査の場合平均35,000円(3割負担で10,000円程度)、治療の場合平均110,000円(3割負担で35,000円程度)です。

*当院でおこなう全ての医療行為は、患者様の理解と同意を得ることを前提としております。

不明な点・疑問などがございましたら、遠慮なく担当医におたずねください。

神戸市立医療センター中央市民病院